

「未来に伝える山形の宝」登録制度 平成29年度登録一覧

(重点テーマ)

取組みの名称	申請団体	主題	取組みの実施エリア	構成文化財	活動内容
最上川上流域における長井の町場景観 (国選定 重要文化的景観 答申)	長井市	最上川上流域にある長井市の宮・小出地区は、江戸時代に最上川舟運の船着場が設置された地区であり、米沢藩の青苧蔵(あおそぐら)、上米蔵(じょうまいぐら)などが置かれ、物資の集散地・商業地として栄えた。往時を継承する商家群、蔵、地割、水路などは最上川舟運の流通・往来に由来する町場景観として重要である。	長井市 中央地区の 一部	<ul style="list-style-type: none"> 旧丸大扇屋 【県指定】 総宮神社 【市指定】 旧西置賜郡役所 【市指定】 長沼合名会社 【国登録】 山一醬油店 【国登録】 他	商家、町家等の歴史的建造物、それらを取り巻く水路や樹木等の自然環境のネットワーク及び歴史的な街区及び敷地の形状、最上川舟運に由来する河川、水路、道路等を適切に保護し、現在の生活又は生業を尊重しながら、町場の文化的価値を向上させる。

(推奨テーマ)

取組みの名称	申請団体	主題	取組みの実施エリア	構成文化財	活動内容
600年以上の歴史と文化を持つ中世城下町の面影 偲ぶ街並み	高掬地域づくり委員会	高掬地区は、奥羽山脈を水源として形成された豊かな土地である。平安時代に山寺立石寺が開山されると、ここにいくつかの石造文化財に表される豊かな心と信仰心が生み出された。 600年前に斯波義直が居館を置いた後に、高掬地区には城下町が形成されていった。山寺から流れる水と豊富な湧水が堀を満たし、周辺の寺を移して四隅を守らせた。羽州街道、立石寺と慈恩寺を結ぶ東西の道が通り、参勤交代時の大名や旅人が当地を往来した。豪農も多く、今も残る黒板塀や門、見越しの松などはそれを物語っている。 地域住民が主体となり、地域内で高掬の貴重性を啓蒙し認識してもらう活動を行うとともに、地域外への情報発信も実施し多くの人が訪れる地域づくりを推進する取組を行う。	天童市 高掬地区	<ul style="list-style-type: none"> 清池の石鳥居 【県指定】 安楽寺の山門 【市指定】 石佛寺の石仏群 【市指定】 清池の六面幢 【市指定】 清池の大日板碑 【市指定】 八幡神社社叢 【市指定】 元諏訪神社のハルニレ群 【市指定】 高掬夜行念佛 【市指定】 高掬精霊菩提獅子踊り 【未指定】 他	<ol style="list-style-type: none"> 高掬歴史ロマン探訪マップの更新 高掬歴史ロマン探訪散策ツアーの実施 地域名案内板等の補修新設 案内マニュアルの作成 案内人養成講座の実施 「清池の石鳥居」敷地の環境整備 地域の魅力・価値の情報発信
笹野観音堂と西国三十三観音 歴史と伝統の息づく里	ささの里づくり推進協議会	笹野地区は、笹野観音堂を中心に米沢藩以来の歴史に彩られた自然豊かな里山景観が保たれている。笹野観音堂とその関連伽藍群は、歴史的な景観が評価され、米沢市景観重要建造物に指定されている。 創建1200年といわれる観音堂は、天保14年に米沢藩によって再建されており、江戸時代の木造建造物では市内最大のもので、唯一の市指定文化財建造物である。再建の際の絵図面や古文書等も残されている。地区の中心的存在であり、時期ごとに様々なイベントを実施している。 西国三十三観音は一時荒廃したが、地域で再整備に取り組み周知活動を行った結果、来訪者が増えてきている。上杉鷹山が奨励した笹野一刀彫の伝統工芸や住民の手によって整備された自然豊かなトレッキングコースもあることから、歴史と自然景観に親しむことができる。 地域としてこれまでの活動を継続しつつ、さらに活動内容に広がりを持たせたいと、先人が守り育ててきた文化財を活用した地域づくりを推進する取組を行う。	米沢市 笹野地区	<ul style="list-style-type: none"> 笹野観音堂 【市指定】 笹野観音堂関連の歴史資料 【市指定】 笹野観音堂関連伽藍群 【未指定】 笹野一刀彫 【未指定】 笹野西国三十三観音 【未指定】 斜平山トレッキングコース 【未指定】 	<ol style="list-style-type: none"> 笹野観音堂の維持管理 笹野観音堂の差茅に使用する萱場の整備 イベントの開催 歴史資料の研究・公開・活用 三十三観音の定期的な巡礼案内・案内人育成・維持管理 笹野民芸館での絵付け体験の実施 トレッキングコースの維持管理
東北の熊野信仰を後世へ～百年の想いを、次の百年に～	太々神楽奉奏百周年記念事業実行委員会	大同元年(806年)に平城天皇の勅命により再建されたと伝えられる東北の伊勢、熊野大社。江戸時代には、門前町の宮内山形と米沢の中間取次所としてにぎわいを見せた。東北の熊野信仰を伝える境内配置は、江戸時代から変わらないとされ、歴史的にも価値がある。 近年は、少子高齢化、参拝客の減少等により、獅子冠や稚児舞等の継承も危ぶまれていたが、新たに始めた縁結び祈願行事等もあり、少しずつ参拝客が増加してきている。平成33年度に太々神楽が伝わってから100周年を迎えることを契機に、熊野大社と宮内の文化の継承と地域の活性化の機運が高まってきている。この機運を活かし、次の百年に文化を継承していくために、地域と一体となった文化財を活用した取組を行う。	南陽市 宮内地区	<ul style="list-style-type: none"> 熊野神社拝殿 【県指定】 二宮神社社殿 【県指定】 土社神社本殿 【県指定】 熊野神社の大銀杏 【県指定】 三宮神社社殿 【市指定】 熊野大社本殿 【未指定】 舞楽及稚児舞 【未指定】 他	<ol style="list-style-type: none"> 国指定史跡に向けた調査 歴史・文化の普及活動(出前講座、ガイド人養成、パンフレットの作成等) 新たな観光資源の創出(観光神楽、地元商店街とのイベント開催等) 文化資産鑑賞のための環境整備 文化施設の改修